

高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発（第3報）

－ 福祉視点での工芸体験プログラムの試作と実施調査 －

Study on craft programs to promote social participation among the elderly (3rd report)

－ Prototyping and evaluation of the craft program from a welfare perspective －

赤田 朝子、濱田 圭、工藤 洋司、小山内 筆子*、千葉 さおり*

（* 弘前医療福祉大学在宅ケア研究所）

本報では、第1報で報告した「プログラムの基本構成案」に基づいて「菱刺模様小箱」の工芸体験プログラム案を作成し、高齢者を対象とする実施調査した結果について報告する。

プログラム基本構成に基づき、各工程 20 分以内を目安に製作工程を分割し、「知る活動」として冒頭と中間にミニレクチャー（南部菱刺しの文化と歴史、こぎん刺しとの比較、古作紹介（画像）など）を実施し、「社会参加要素」を補強する自己紹介と作品発表を導入部と最後に配置し、全体時間を 60 分とした（図1に概要）。また、作業の安全性や心身へのストレスなど危険要素をチェックして適宜修正した。

体験会は、弘前医療福祉大学在宅ケア研究所の協力を得て、令和7年1月15日に小比内地地区農業研修会館で実施した。当日の同研究所主宰「健康教室」参加者（小比内地老人クラブと町内会メンバー計12名、70代中心）に体験会への参加を募ったところ、当初は女性のみ4名であった。男性は“手芸”への参加に難色を示していたため、「針仕事経験は不要、途中で止めても良い」と伝えたところ、2名の参加を得た。

体験会の様子はビデオで撮影記録し、参加者の感想を体験後にアンケート調査した。実施調査の結果、①プログラムには参加者全員が集中して取り組んでいた。特に、男性2名が非常に意欲的に取り組み、時間内に作品を完成させた。②導入を含め 60 分弱のプログラムはやや時間不足で、老眼鏡の準備ミスも影響し、完成者は半数であった。③アンケート調査では、楽しかった・やや楽しかったが4名、難しかった・やや難しかったが3名で、全員が「飽きなかった」、「5名が製作物を持ち帰って使う」と回答した（図2）。自由記載欄には、「とても楽しく作業できた」「初めての体験でとても楽しく作業ができた」「ボケ防止にとっても良いと思う」等の感想があった。

今回の調査により、菱刺模様小箱の作成体験プログラムは、高齢者が男女ともに「少し難しいと感じながらも飽きずに楽しめる」フレイル予防要素（社会参加、身体活動、知的活動、精神効果）を含む工芸体験となっていること、老眼（眼鏡持参）や作業時間の調整（個人差対応を含む）等が課題であることが判った。

